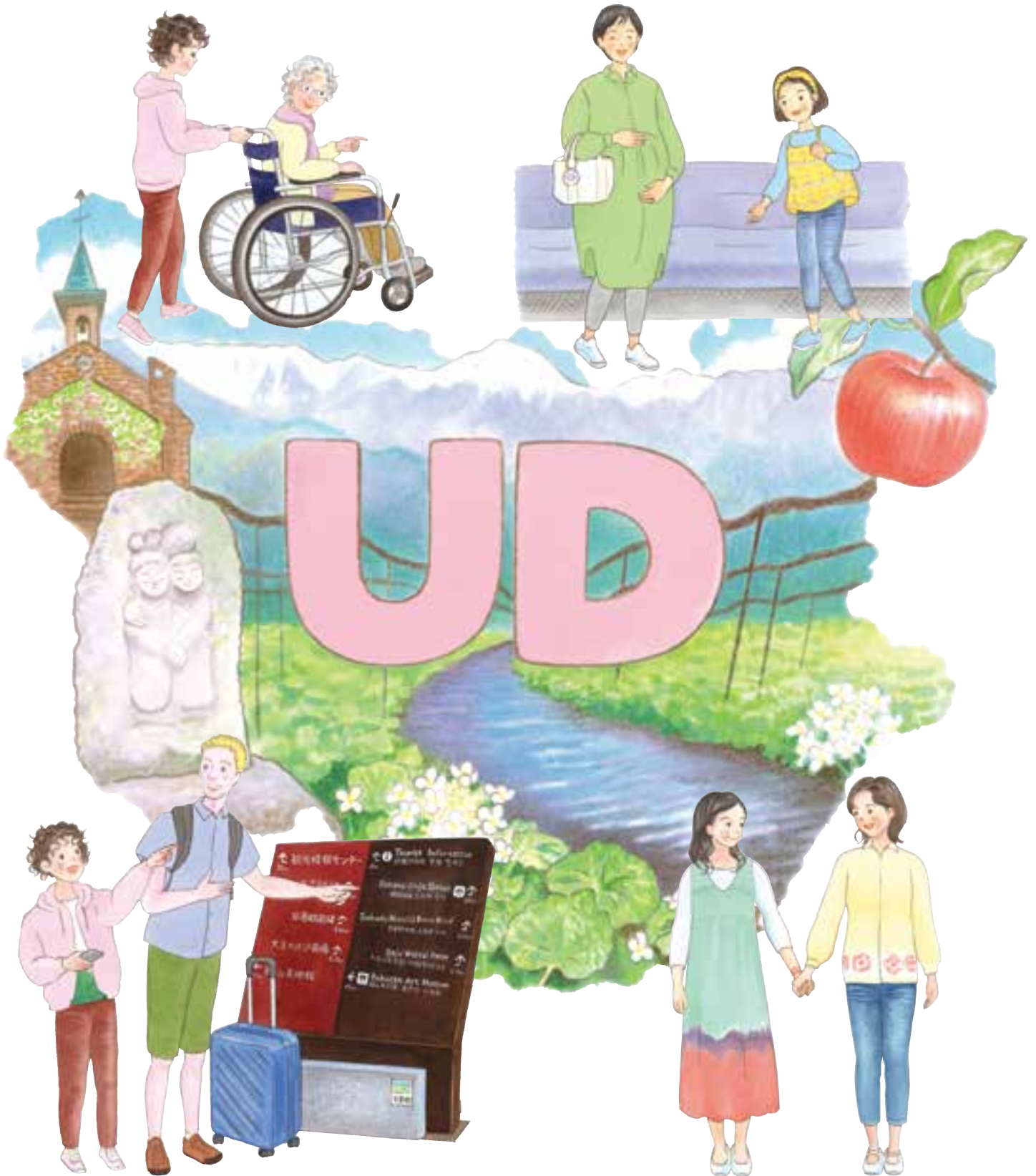


だれもが かがやける 共生社会へ

ユニバーサルデザイン ガイドブック



安曇野市

安曇野市 ユニバーサルデザイン ガイドブック

すべての人が暮ら

すべての人が暮らしやすい社会へ	1
1 ユニバーサルデザインとは	3
2 安曇野市のユニバーサルデザインの取り組み	5
3 こころのユニバーサルデザイン	7
4 おもてなしのユニバーサルデザイン	9
5 しゅくみ・情報のユニバーサルデザイン	11
6 ものづくりのユニバーサルデザイン	17
7 建物のユニバーサルデザイン	19
8 オフィスのユニバーサルデザイン	21
9 トイレのユニバーサルデザイン	23
10 道路・交通のユニバーサルデザイン	25
11 公園のユニバーサルデザイン	27
12 防災のユニバーサルデザイン	29

多様性を尊重する共生社会

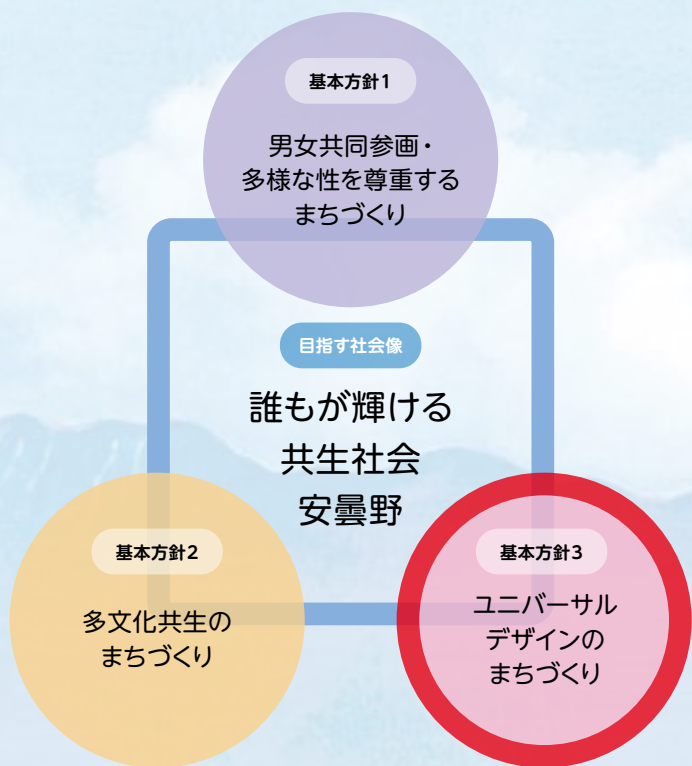
人口減少・少子高齢化・国際化や情報化の進展、自然災害の激甚化が懸念される現在、私たちの価値観やライフスタイルは多様化してきています。安曇野市においても、子どもから高齢者まで、年齢、性別、国籍、障がいの有無などさまざまな背景をもつ人々が暮らしており、多様性を尊重した共生社会の実現が求められています。

こうした背景から、安曇野市では、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを推進するため、「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例」(令和4年)および本条例に基づく計画(令和5年)を策定しました。「誰もが輝ける共生社会 安曇野」を目標に、①男女共同参画・多様な性を尊重するまちづくり、②多文化共生のまちづくり、③ユニバーサルデザインのまちづくりの3つを基本方針とする施策に取り組んでいます。



しやすい社会へ

安曇野市のめざす社会像



誰もが輝ける安曇野を目指して

安曇野市では、すべての市民が可能な限り、公平に社会参加し、社会における様々な障壁をなくすだけでなく、すべての市民の基本的な権利が尊重され、自らの意思で行動し、あらゆる分野の活動に参加することができる社会を目指します。

本ガイドブックは、ユニバーサルデザインの視点から配慮すべき点を検討し、各項目に記載した事例を参照しながら、まちづくりの推進に活用することを目的とします。年齢や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、「誰もが輝ける安曇野」を目指し、ユニバーサルデザインによる持続可能なまちづくりを市全体で取り組んでいきます。



※本ガイドブックでは、「障害」の表記を「障がい」としています。
ただし、法令の名称や固有名詞の表記は例外とします。

1 ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」という意味で、年齢、性別、国籍、個人の能力などにかかわらず、最初から誰でも利用しやすいように、施設、製品、環境、社会のしくみなどをデザインしていこうとする考え方です。

1980年代、ユニバーサルデザインを提唱したアメリカの建築家、故ロナルド・メイス氏。



ユニバーサルデザイン政策の動向

日本では、1990年代後半から「ユニバーサルデザイン」に先駆けて、公共交通機関や建築物などのバリアフリー化が図られてきました。ハートビル法(1994年)や交通バリアフリー法(2000年)が施行され、一定規模の施設にバリアフリー化が義務付けられるようになりました。

2000年代に入ると、ユニバーサルデザインが一般的に普及されはじめ、政府の基本的な方針である「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」(2008年)が策定されました。

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を前にした2017年には、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が策定され、来日する外国人対応としてのユニバーサルデザインや、大会の基本コンセプトである「多様性と調和」、「復興五輪」に合わせた「心のバリアフリー」、「防災のユニバーサルデザイン」が重視されるようになりました。

ガイドブック作成の背景

- 平成28年4月に「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、「障がいを理由とする差別的扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が地方公共団体や事業者の法的義務となりました。
- 平成31年4月に「出入国管理及び難民認定法」の改正による特定技能」の在留資格の追加や、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」(法務省)による積極的な外国人の受け入れが進められ、本市の外国人居住者も増加傾向にあります。
- 令和5年からの「第2次安曇野市総合計画 後期基本計画」及び「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」において、全ての人が多様性を認め合い、責任を分かち合い、自分らしく暮らせる地域社会を目指し、ユニバーサルデザインのまちづくりの実現を掲げています。

ユニバーサルデザインとSDGsとの関係

ユニバーサルデザインとは「人々の能力は多様であるのが当たり前」ということを前提に、最初から誰もが利用しやすい持続的なデザイン(環境づくり)を目的としています。一方SDGsは、地球上の「誰一人取り残さない」という考え方のもとに、国連加盟国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の

目標です。つまり、SDGsのコンセプトそのものが、ユニバーサルであると言えます。そのためSDGsは、ユニバーサルデザインと多くの共通点があります。



ユニバーサルデザイン7つの原則

ユニバーサルデザインには、デザインするうえで大切にすべき「7つの原則」があります。すべての条件を満たす必要はありませんが、誰もが使いやすいデザインにするために重要な要素になります。

①

公平性

誰もが同じように
目的を達成できること



階段とエレベーターを
選んで利用できる

②

自由性

自分に合った使いやすい
方法を選べること



高さの異なる
水飲み場

③

単純性

使い方が簡単明瞭で
わかりやすいこと



押す部分が
大きなスイッチ

④

わかりやすさ

必要な情報が伝わり、
すぐ理解できること



ピクトグラムによる
案内表示

⑤

安全性

うっかりミスが
危険につながらないこと



ロックを解除して
給湯するポット

⑥

省体力

無理な姿勢をとることなく、
少ない力でも楽に
使用できること



センサー式の蛇口

⑦

空間性

体格や姿勢、可動性に
関係なく、使いやすい寸法・
空間があること



広いスペースのある
多目的トイレ

ユニバーサルデザインとバリアフリーのちがい

バリアフリーは、もともとある建物や設備で、ある特定の人（障がい者や高齢者など）にとって障壁（バリア）になっているものがあれば取り除いていこうとする考え方です。

一方、ユニバーサルデザインは、計画のはじめから、障壁が生じないように作り、すべての人にとって利用しやすい生活環境をデザインしていこうとする考え方です。



2 安曇野市のユニバーサルデザインの取り組み

ユニバーサルデザインのまちづくりでは、建物や製品などハードの面と、サービスや情報などを対象とするソフトの面を整備することが必要です。また、さまざまな人が生活する社会において、お互いの個性や立場の「違い」を認め、共に支え合うハート(こころ)のユニバーサルデザインを理解することが大切です。

安曇野市のユニバーサルデザインのまちづくりでは、ハード・ソフト・ハートのユニバーサルデザインが一体となり、誰もが公平に社会参加できるまちづくりを、市民・事業者・行政が協働して推進していきます。

一人ひとりにあった支援や情報を受けられるような「しくみ」をつくること。

ソフト

ハード

まちや建物、乗り物などを整備し、安全・安心・快適に過ごせるようにすること。

多様性を尊重し、思いやりのこころを持ち行動すること。

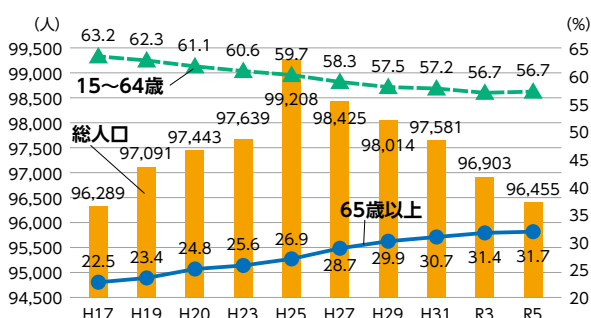
ハート

高齢化と国際化が進む安曇野市

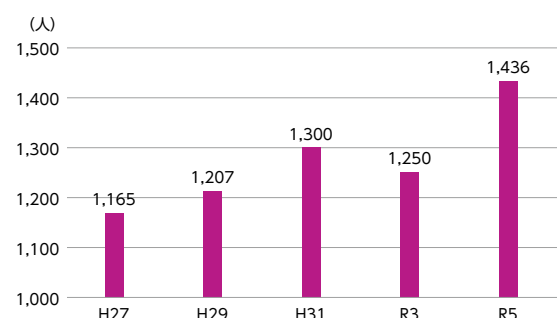
安曇野市の人口は、平成25(2013)年をピークに減少し、令和5(2023)年で96,455人、令和27(2045)年には約2割の人口減少が見込まれています。65歳以上の高齢人口の割合は、令和5(2023)年に31.7パーセントとなり、全国平均の29%を上回り高齢化が進んでいます。

また、令和5(2023)年の外国籍市民数は1,436人(38の国と地域)で、人口の約1.5%を占め、年々増加しています。国籍別では、「中国」「ブラジル」「ベトナム」の順に多く、近年、ベトナムとインドネシア国籍の市民が増加しています。政府の「外国人材の活用策」のもと、今後も外国籍市民数が増加すると考えられます。

○安曇野市の人口推移



○外国籍市民の人口推移



ユニバーサルデザインのまちづくり

ユニバーサルデザインを推進するためには、市民、行政、事業者が協働できるしくみが必要です。

市は、ユニバーサルデザインのまちづくりを計画し、市民と事業者の意見を調整して企画を提案します。そして、実施された計画の評価を行い、取組の改善を目指します。

事業者は、市のユニバーサルデザイン計画に基づいて、多様な利用者のニーズに応えた製品やサービスを提供します。

市民は、さまざまな人々への理解を深め、配慮をするとともに、利用者の視点から「気づいたこと」を行政や事業者に発信します。

ユニバーサルデザインの普及・啓発

- 生涯学習、社会活動、学校教育でユニバーサルデザインを学ぶ場を作る。
- フォーラム、イベント、講演会、研修会、学習会の開催。
- 当事者参加による事業の推進。



子どもの頃から学ぶ機会を。



お互いの文化を知ろう。



ユニバーサルスポーツで子どもから大人まで一緒に楽しもう。

長野県の取り組み

信州ユニバーサルツーリズム

長野県では年齢や障がいの有無などにかかわらず誰もが自然豊かな長野県の魅力を楽しめるよう、設備やサービスの整備を推し進めています。



信州型ユニバーサルデザイン

長野県では教育現場において、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりのため、先生方と信州UDを作成しています。



3 こころのユニバーサルデザイン




こころのユニバーサルデザインは、相手の立場に立って考え、思いやりのある行動ができることです。私たちのまちには、子ども、高齢者、外国人、車いすを利用している人、目や耳が不自由な人、外見ではわからない障がいのある人などさまざまな人がいます。誰もが暮らしやすい社会にするためには、建物や製品をユニバーサルデザインにするだけでなく、お互いに理解し支え合うこころのユニバーサルデザインが大切です。

- ポイント 1** さまざまな人の困りごとや行動面の特徴を知る。
- ポイント 2** 困った様子の人がいたら声をかけ、どのような助けが必要なのかを聞く。
- ポイント 3** 「ゆっくり」「わかりやすく」「ていねいに」、相手に合わせたサポートをする。


さまざまな人の困りごと・行動面の特徴

障がいのある人や高齢者など、それぞれの立場でこんな困りごとがあります。

 **高齢者**


- ・足腰が弱くなりつまずきやすい。
- ・小さな文字が見えにくく、音や声が聞こえにくい。
- ・機敏な動きが取りにくい。
- ・重い荷物を持つのが大変。



 **車いす利用者**

- ・段差やすき間を乗り越えるのが困難。
- ・十分なスペース、幅員がないと通れない。
- ・高いところに手が届かず、落ちたものを拾うのも大変。



 **視覚障がい者**

- ・全盲、弱視者、色覚障がい者など多様な見え方の人がいる。
- ・段差や障害物に気づかず危険なことがある。
- ・文字だけの情報では分からない。
- ・買い物では商品やカードの区別に困る。



妊娠している人・乳幼児連れ

- ・階段の上り下り、立ち上がったたり、座ったりすることが大変。
- ・ベビーカーでは階段を使えない。
- ・おむつ替えやミルクをあげる場所に困る。



聴覚障がい者

- ・後ろから声をかけても気づかない。
- ・外見からは障がいがあることが分からない。
- ・音声だけの情報では分からない。



外国人

- ・日本語の案内や説明がわからない。
- ・文化・宗教・習慣の違いから、誤解を受けることがある。



いろいろな性

- ・「男らしくない」「女らしくない」といった発言に傷つく。
- ・差別や偏見を受けることがある。
- ・男女別の施設や制度に困る。



内部障がいがある人

- ・臓器や免疫など身体の内部機能に障がいがあるため、外見からではわかりにくい。
- ・疲れやすさや、体調の悪さを周りに理解してもらいにくい。



知的障がい・発達障がい・精神障がいがある人

- ・外見からは障がいがあることがわからないことも多く理解されない。
- ・人との関わりやコミュニケーションが取りにくい。
- ・社会や他の人に合わせた行動が苦手。
- ・自分が困っていることがわからない、あるいは、うまく伝えられない。

4 おもてなしのユニバーサルデザイン

お店にはさまざまな人が買い物や食事に来ます。誰でも入りやすく、安心して気持ちよく過ごせるお店をつくるためには、利用者の立場に立ったおもてなしや配慮が必要です。

●入店時の対応

こんなことに困っています

- ・出入口に段差や砂利敷き・踏み石があると、車いす利用者等は入店できない。
- ・前後に開閉する開き戸では、自分ひとりで出入りできないことがある。
- ・視覚障がい者には出入口がわかりにくいことがある。
- ・補助犬と一緒に入店してよいか不安。
- ・車いす利用者等は、店舗前に迷惑駐車・駐輪がしてあると通行できない。

サポートのポイント

- ・出入口で困っている人がいたら、声をかけてお手伝いをする。
段差がある場合は、すりつけ板やスロープを設け、車いす利用者が入店しやすい工夫をする。
- ・利用者自身でドアを開閉できない場合はドアを支えておく。
- ・入口に「ほじょ犬マーク」を貼り、同伴できることを案内する。
- ・入口付近はスペースを確保。点字ブロックの上に障がい物がないか確認する。



●店舗内での対応

こんなことに困っています

- ・通路をふさぐ商品や椅子があると安全に通行できない。特に、視覚障がい者や車いす利用者にとって通行が困難。
- ・車いす利用者は、高いところにある商品に手が届かない。
- ・飲食店の椅子が床に固定されていると、車いす利用者は使えない。
- ・買った商品を袋に入れるのに時間がかかる。
- ・視覚障がい者や高齢者等は、商品名や値段が書かれたラベルが読みにくい。

サポートのポイント

- ・店内通路、商品の陳列は整理整頓し、通行の邪魔にならないようにする。
- ・手に取りやすいように商品を並べる。取れない商品は手に取って渡す。
- ・車いすや子ども用椅子が利用可能なテーブルを配置。
- ・レジから買った商品を袋に入れる台への移動、商品の袋詰めを手伝う。
- ・商品ラベルは「大きな文字」で「はっきり」と「見分けやすい配色」で必要な情報を表示。
- ・利用者の必要に応じて商品選びに同行する。商品名や色、サイズ、値段などを言葉で伝える。



●注文・会計の時の対応

こんなことに困っています

- ・聴覚障がい者や、日本語がわからない外国人等は会話による注文が難しい。
- ・聴覚障がい者は、名前や番号を呼ばれてもわからない。
- ・視覚障がい者等は、メニューに書いてある情報がわからない。
- ・視覚障がい者等は、テーブルに置かれた料理の位置や内容がわからない。
- ・高齢者、視覚障がい者、手の不自由な人等は、会計の際、お金やカードを出すのに時間がかかる。

サポートのポイント

- ・指差しで注文できるメニュー表や注文用紙を用意。
- ・名前や番号を呼び出す時は、音声だけではなく文字などの視覚情報でも伝える。
- ・視覚障がい者には、必要に応じてメニューを読み上げ、商品を選んでもらう。
- ・視覚障がい者には、運んできた料理の配置・内容を説明する。
- ・レジの金額は読みやすくし、必要であれば支払いを手伝う。
- ・視覚障がい者には、おつりを金種別に言葉で伝えながら渡す。
- ・会話方法を工夫し、顔をみて、「ゆっくり」「わかりやすく」「はっきり」伝える。必要な場合は、同じ内容を「くり返し」て、確認しながらサポートする。



こんな取り組みがあります

筆談ボードや 写真・イラストの利用

やさしく簡単な言葉でゆっくりと話す、相手に伝わりやすくなります。絵や図を使ったり、メモを書くとより分かりやすくなります。



筆談ボード

ヘルプマーク、ヘルプカード

障がい者等援助を必要とする方が携帯しているマーク。必要な支援や配慮、連絡先が記載されています。



ヘルプマーク



ヘルプカード

補助犬の入店

補助犬には「盲導犬」「聴導犬」「介助犬」の3種類があります。障がい者をサポートする特別な訓練を受けた犬で、物販店や飲食店にも入店できます。

補助犬の同伴は「身体障害者補助犬法」で、一般の人が利用する店舗、レストラン、ホテル、病院等で受け入れるよう義務付けられています。



ほじょ犬マーク

5 しゅくみ・情報のユニバーサルデザイン-1

ソフト

安全で快適な生活を送るためには、一人ひとりにあった情報やサービスを受けられるしゅくみづくりが重要です。「しゅくみ・情報のユニバーサルデザイン」では、高齢者や障がい者、外国人をはじめ、さまざまな人に対して見やすく、分かりやすい情報の提供をめざします。みんなが平等に情報を受け、多様なコミュニケーション手段を利用することができれば、交流の機会も増え、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことができます。

ポイント
1

多様な見え方・聞こえ方の人がいることを意識して表示する。

ポイント
2

簡単で、わかりやすい表現を使用する。

ポイント
3

利用者に合わせた手段・方法を組み合わせて情報を伝える。

印刷物・文書のユニバーサルデザイン

誰もがわかりやすい印刷物・文書を作成するためには、次のような配慮や工夫が必要です。

●文字の大きさ

視覚障がい者や高齢者にとって、小さな文字で書かれた文書を読むのは大変です。定められた様式がなければ、文字サイズは「12ポイント以上」を推奨しています。

10ポイント
「安曇野市ユニバーサルデザイン」
12ポイント
「安曇野市ユニバーサルデザイン」

●行間・文字間の設定

行間が狭いと文字を追うことができなくなり、文字間が狭いと文字の切れ目が分かりづらくなります。適度な空間・空白をとる必要があります。

行間100% 文字間ツメ
人権を尊重し合い、個性を認めながら対等な立場で住みよい社会を築いていくために、安曇野市は、「誰もが輝ける共生社会」をめざします。

行間150% 文字間ベタ
人権を尊重し合い、個性を認めながら対等な立場で住みよい社会を築いていくために、安曇野市は、「誰もが輝ける共生社会」をめざします。

●UDフォント

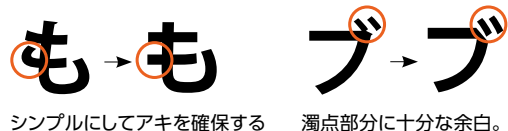
UDフォントとは字面を広く、画線をシンプルにするなど読みやすく、誤読を防ぐよう工夫された文字です。

目が悪く文字がぼやけて見える方や、白内障や発達障がい（ディスレクシア）で太い部分と細い部分が混在すると読みにくい方などにとって、より読みやすく工夫されています。

字面を広くする



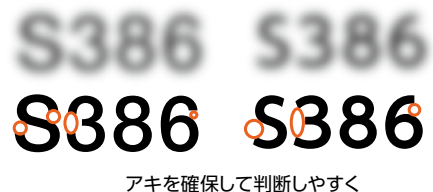
画線をシンプルにする



誤読を防ぐ ※右がUDフォント

焦点ずれ

原型



書体のユニバーサルデザイン

書体には「読みやすい書体」「見やすい書体」「デザインの書体」の3種類があります。目的やシーンに応じて使い分けることが大切です。

●読みやすい書体

報告書など数十行におよぶ長い文章（読む文章）には**細い書体**が向いており、可読性（読みやすさ）の高い明朝体やゴシック体が適しています。

✕太い明朝体

明朝体は可読性が高く、長い文章を書くのに適しています。しかし、太い明朝体はそれほど可視性が良くありません。また、ディスプレイ上では、ゴシック体の方がおすすめです。

○細い明朝体

明朝体は可読性が高く、長い文章を書くのに適しています。しかし、太い明朝体はそれほど可視性が良くありません。また、ディスプレイ上では、ゴシック体の方がおすすめです。

●見やすい書体

ポスターやスライドなど簡条書き等で要点をまとめた資料文章（見る文章）には視認性（遠くからでもしっかりと字が認識できること）の高いゴシック体が適しています。

✕明朝体

スライドタイトル

- ・ゴシック体は読みやすい
- ・ゴシック体は横線と縦線の太さが均一な書体
- ・言語によってはゴシック体では表示できないことがある。
- ・小見出しには太めのゴシック体が適切



- ・明朝体は長い文章に適している。
- ・明朝体は太さが不均一。
- ・明朝体は線が1つの特性によって読みにくいことがある。
- ・明朝体はディスプレイ上で見にくい。

○ゴシック体

スライドタイトル

- ・ゴシック体は読みやすい
- ・ゴシック体は横線と縦線の太さが均一な書体
- ・言語によってはゴシック体では表示できないことがある。
- ・小見出しには太めのゴシック体が適切



- ・明朝体は長い文章に適している。
- ・明朝体は太さが不均一。
- ・明朝体は線が1つの特性によって読みにくいことがある。
- ・明朝体はディスプレイ上で見にくい。

●デザインの書体

タイトルなど人の目を引き付けたいときに使用すると有効です。可読性は低いことが多いため、文章には適していません。

言葉のイメージと合う書体はどれ？

お買い得

お買い得

お買い得

カラーユニバーサルデザイン

色は誰にでも同じように見えているわけではありません。ある人にとって区別しやすい配色が、別の人には区別しにくいことがあります。

色覚に障がいのある人は、男性では20人に1人、女性では500人に1人いると言われています。色の違いが分かりにくい方を意識し、**色の区別がしやすい組み合わせ**をするとともに、**色に依存した表現は極力避ける**ようにしましょう。

一般色覚



D型色覚



T型色覚



色覚に障がいのある人の見え方には、赤と緑がほぼ同じに見えたり、青が見分けづらいなどがあります。

●色の組合せ

- ①明度に差をつける。
- ②暖色（赤、オレンジ、黄色系）寒色（青系）で対比する。
- ③彩度の低い色同士の使用は避ける。

✕悪い例	○良い例
<p>青と赤の対比</p> <p>暖色寒色は対比しているが、明度が近い</p>	<p>青と黄の対比</p> <p>明度も対比、暖色寒色も対比</p>
<p>みずいろ、薄緑、ピンクの対比</p> <p>彩度の低いパステル調だけ</p>	<p>薄オレンジ、緑、ピンクの対比</p> <p>はっきりとした色とパステル調を対比</p>

○文字色と背景色

見分けにくい色の例	見分けやすい色の例
あづみの (黄緑)	あづみの (青)
あづみの (黄)	あづみの (青)
あづみの (赤)	あづみの (青)

●色に依存しない表現

書体や太さを変えてわかりやすくする。

注意事項をよくお読みください。

▼

注意事項をよくお読みください。

網かけなどのパターンや縁取りをして強調する。

■A市 ■B市 ■C市 ■D市 ■E市

グレースケール表示をして情報が伝わるか確認してみましょう。

表現のユニバーサルデザイン

やさしい日本語・わかりやすい表現

難しい言葉がわからない障がい者や子ども、外国人に配慮して「やさしい日本語」や「わかりやすい表現」に換えて表現します。

●やさしい日本語

「やさしい日本語」とは、日本語に不慣れな外国人の方に、素早く的確に情報を伝えることを目的に考案された簡単な日本語のことです。



- ①漢字にふりがなを振る
- ②難しい言葉を避け、簡単な言葉を使う
- ③一文を短くして、文の構造を簡単にする
- ④文節の間に余白を空けて区切る“分かち書き”にする
- ⑤外来語(カタカナ語)はできる限り使わない
- ⑥擬態語や擬音語は避ける など

・土足厳禁
・召し上がる
・キャンセルする
・高台に避難する

・靴^{くつ}を 脱^ぬいでください
・食^たべる
・やめる
・高^{たか}いところに 逃^にげる

●わかりやすい表現

表形式や箇条書きなどを活用してわかりやすくする工夫や、数値は列を右に揃えるなどの工夫が必要です。

期日厳守の上

手続きに必要なものは、3か月以内に取得した診断書、縦4cm×横3cmの顔写真、印鑑、マイナンバーがわかるもの、運転免許証などの身分証明書です。

1234567円
987654321円

〇月〇日までに必ず

〈手続きに必要なもの〉

- ①診断書
(3か月以内に取得)
- ②顔写真(縦4cm×横3cm)
- ③印鑑
- ④マイナンバーがわかるもの
- ⑤身分証明書
(運転免許証など)

1,234,567円
987,654,321円

無意識にこんな表現を使っていませんか？

受け取り手に精神的苦痛や不快感を与えたり、偏見や誤解を与えるような表現はしてはいけません。

差別的イメージを含む表現

身体的な表現の中には相手が不快感や疎外感を抱くことがあります。また、病気などを示す言葉の中には差別的なイメージを含む用語が使われていることがあります。

・手短に
・市民の足
・痴ほう
・未熟児

・簡単に、短時間で
・市民の乗り物(交通手段)
・認知症
・低出生体重児

性別に基づく固定観念を助長する表現

性別にとらわれない、多様なイメージが社会に浸透するような表現が求められています。



・父兄
・女社長
・ビジネスマン、OL

・保護者
・社長
・会社員

男女いずれかに偏った表現になっていないか注意しましょう。

多様なコミュニケーションツール

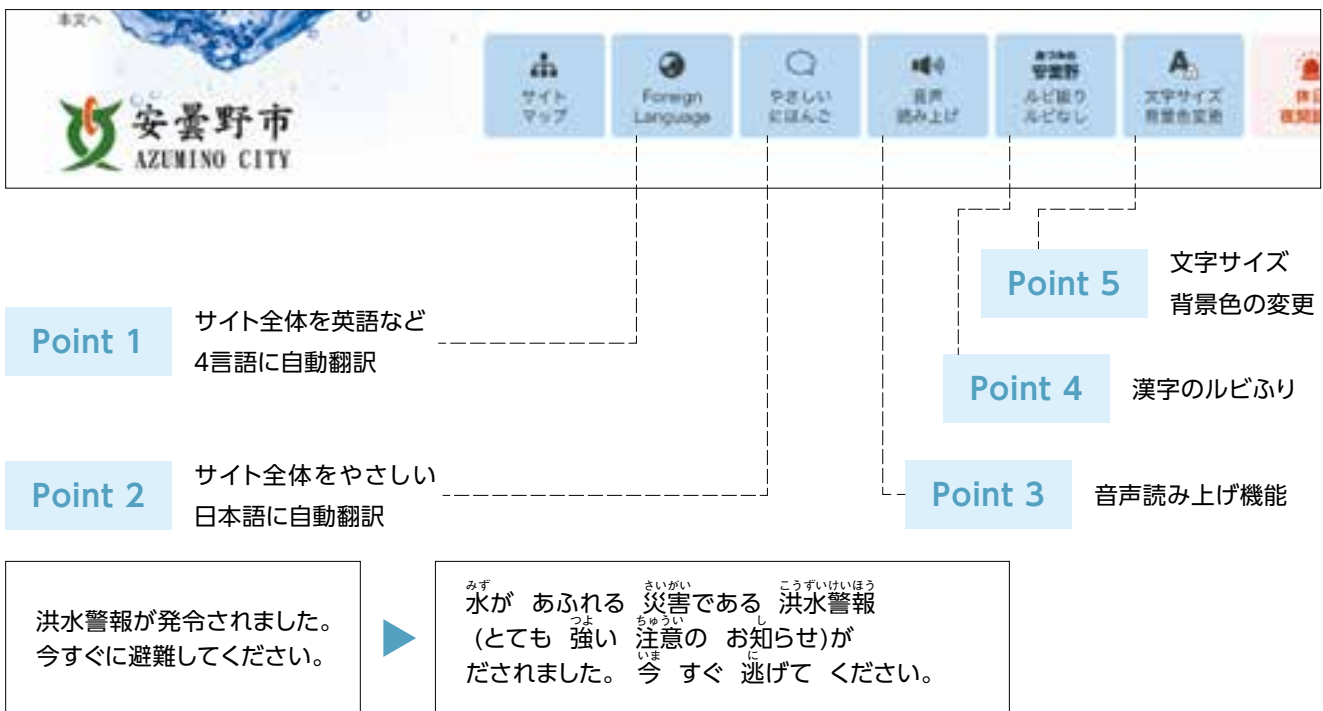
便利なコミュニケーションツールには次のようなものがあります。利用者が自分に合った方法や機能が選べるようにする必要があります。

●スマートフォン・タブレット

スマートフォンやタブレットには、画面表示を拡大したり、フォントや背景色、明るさを変更する機能があります。また、文字を音声で読み上げたり、音声を認識する機能が標準で備わっています。筆談の代わりに、文字を入力して相手に伝える道具としても使えます。

●Webのユニバーサルデザイン

ホームページを閲覧する人にとって必要な情報が得られるよう、わかりやすく作ることに加え、ユニバーサルデザインに配慮した機能を採用することも大切です。



●案内板

公共交通機関や公共施設、観光施設においては、日本語以外の言葉やピクトグラムで案内すると多くの人に伝わりやすくなります。ピクトグラムは文字を使わず、情報をデザイン化したものなので、小さな子どもや外国人にも分かりやすくなります。

○ピクトグラム例



人による支援・サポート

表示やサインをユニバーサルデザイン化するだけでなく、人によるサポートを組み合わせ、コミュニケーションを円滑にします。

●窓口での対応

障がい等に関わらず、すべての人が困りごとやわからないことを相談できる窓口が必要です。

●多言語対応の窓口

安曇野市では2023年7月に20の言語に対応した外国籍市民相談窓口を開設しました。また、各支所においても多言語映像通訳サービスにて多言語対応ができるようになっています。



●コミュニケーションボード

元々は知的障がい、自閉症、聴覚障がいの人のコミュニケーション支援を目的として作成された図版です。絵とともに多言語表記することで、受付時や災害時などに、様々な人と簡易的なコミュニケーションを図ることができます。

3. 被災外国人用 | 表面

●食べられないものがあります ① I cannot eat certain food. ② 特定の食品を食べられません ③ 못 먹는 음식이 있습니다 ④ Tôi không thể ăn được. ⑤ ...	●体の調子が悪いです ① I am not well. ② 体調が悪いです ③ 몸 컨디션 좋지 않습니다 ④ Tôi thấy trong người không khỏe. ⑤ ...
●長い間持っている病気があります ① I have a chronic illness. ② 慢性病を持っています ③ 장기간 앓고 있는 만성 질환이 있습니다 ④ Tôi có bệnh mãn tính. ⑤ ...	●お祈りをしたいです ① I would like to pray. ② 祈りたいです ③ 기도하고 싶습니다 ④ Tôi muốn cầu nguyện. ⑤ ...

●認知症サポーターの育成

認知症の基本理解や認知症の人との対応を学び、認知症の人やその家族を地域でそっと見守る人を養成します。

サポーターの証として個人に「オレンジリング」、事業所に「認知症サポーターステッカー」を交付します。



聴覚障がい者への配慮

生まれつき耳が聞こえない人の中には、手話を母語としており、文字が苦手な人がいます。一方、途中から耳が聞こえなく（聞こえにくく）なった人は、補聴器や人工内耳、文字情報で理解しており、手話が分からない人がいます。
⇒音声で伝えることと併せて、**耳が聞こえない人へ配慮**しましょう。

耳マーク・手話マークの設置

筆談や手話での対応が可能な場合は、耳マークや手話マークで明示すると安心して利用できます。



耳マーク



手話マーク

手話通訳や要約筆記

講演会など多数の参加者を集めて行うイベント等においては手話通訳や要約筆記者を設置することが有用です。

安曇野市が主催するイベントではイベントの状況に応じて手話通訳や要約筆記者の設置を進めています。

6 ものづくりのユニバーサルデザイン

ハード

ユニバーサルデザインは、普段私たちが何気なく使用している製品やモノにも多く取り入れられています。年齢や能力などの個人差によらず、誰でも同じように使えるデザインは安全かつ便利で機能的でもあります。「ものづくりのユニバーサルデザイン」では、すべての人の日常に役立つデザインであること、そして、人の暮らしや生き方を豊かにするものづくりをめざします。

ポイント
1

誰にでも安全・安心して使えるデザインにする。

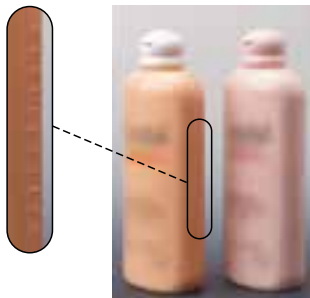
ポイント
2

使いやすく・わかりやすい機能にする。

ポイント
3

すべての人の日常に役立ち、暮らしを豊かにするものづくりをめざす。

●シャンプー・リンス



シャンプーの容器には線の凹凸がついているため、触っただけで他の容器と区別できる。

●ペットボトル



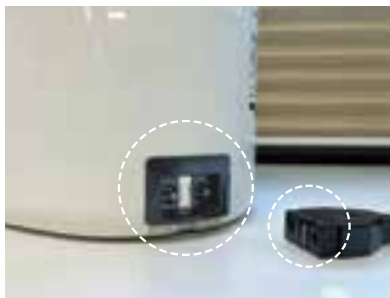
ボトルを軽量化し、くぼみをつけた加工で、少ない握力でも安定して持つことができる。

●アルコール缶



視覚障がい者の誤飲を防ぐため、飲み口には点字で「おさけ」または「ビール」と表記。

●マグネット式コンセント



マグネット式電源コードはすぐに外れるため、コードに引っかかってもポットが倒れてやけどをする心配がない。

●スマートフォン



文字の読み上げ、音声認識、画面表示の拡大、フォント・背景色・明るさ変更など便利な機能が豊富。

●食品ラップの化粧箱



巻き戻り防止などの工夫によりラップが引き出しやすく、切れやすいつくりとなっている。

●医薬品包装



前開き形状で開けやすく、大きな文字で用法・用量を明記。多言語対応の自動音声読み上げ機能で薬の情報が得られる。

●電子体温計



測定結果を見やすい大型表示と音声・ブザーで知らせる。感温部(先端部)は検温中に動きにくい平らな形状。

●ボールペン



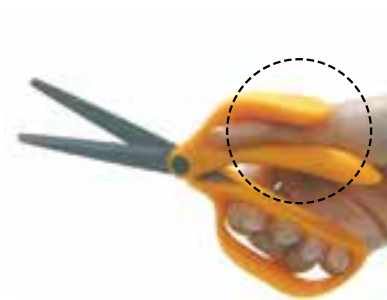
ペン軸を太くし、シリコンラバーを巻くことで握りやすく使いやすい。

●自動販売機



車いす利用者に配慮し、操作部が低く、出口が高いことで、操作しやすく、取出しやすい。

●はさみ



ハンドルの片側を開き、さまざまな握り方に対応。

●牛乳パック



「切欠き」があることで、視覚障がい者が牛乳と他の飲料を区別できる。切欠きの反対側が開け口とわかる。

●段ボール製包装箱



ミシン目に沿って簡単に開き、中身を取り出しやすい。

●計算機



色分けされた大きなキーと余裕のあるレイアウト。

●UDグリップ包丁(両手用)



ハンドルの角度が変更できるため、座った状態で使う方、手首に障がいがある方でも使いやすい。

7 建物のユニバーサルデザイン

ハード

誰もが快適に、安全に、安心して利用できる建物を整備するためには、ユニバーサルデザインに配慮した設計・施工・管理運営が求められます。新しい建物や公共施設では、法の整備等により、バリアフリーやユニバーサルデザインが導入されつつありますが、既存の建物についても改善を進める必要があります。事業者・行政・市民それぞれの意見を反映して、すべての利用者にとって最も適した建物をつくるのが大切です。

- ポイント 1** 「移動しやすく」「利用しやすく」「わかりやすい」建物であること。
- ポイント 2** 利用者の視点から計画・設計・施行・管理運営を行う。
- ポイント 3** つくる側と利用者が協働して建物のユニバーサルデザインに取り組む。

移動空間のユニバーサルデザイン

ある場所から目的地まで、さまざまな人が安全かつ快適に移動するためには、以下のポイントが大切です。

●上下移動をスムーズに

- ・垂直移動が必要な場所では、上下階の移動が困難な人に配慮し、エレベーターやスロープを設置。



- ・スロープの設置は、長さ・勾配・前後の安全を考慮し、スロープの出入口付近には障害物を置かない。

●十分なスペースを確保

- ・通路は、車いすの通行、転回ができる十分な幅員を確保。
- ・車いす利用者用駐車スペースは、安全で利用しやすく、屋根のある場所に設置。
- ・駐輪場は、歩道の幅を狭める放置自転車を削減するため、利用しやすくわかりやすい場所に設置。



●移動の連続性を確保

- ・無用な段差はなくし、移動の連続性に配慮。

○移動の連続性は、施設内だけでなく、建物外部との接続部分の整備が重要になります。整備の主体が異なる場合は、事業者、行政等さまざまな主体との連携が必要です。



●負担の少ない動線

- ・エレベーターやスロープは、遠回りする場所を避け、すべての利用者と同じ経路に配置。
- ・視覚障がい者にとって、カーブや斜めの進行は方向感覚を失いやすいため、直角移動ができる動線を確保。
- ・階段の手すりは、踊り場まで連続して敷設。背の高さにより選べる2段の手すりを設置。



活動空間のユニバーサルデザイン

「分かりやすく」「利用しやすく」「安心できる」設備を整え、自由に活動できる空間をつくります。

●分かりやすく利用しやすい設備

サインだけに頼った移動は難しいので、設計の段階から「迷わない空間」をつくり、その補完としてサインを設置します。



○具体例

- ・施設全体の分かりやすいゾーニング
- ・字体・大きさ・コントラスト・高さ・色に配慮した案内サインの設置
- ・文字によらず、絵を見るだけで案内を可能とするピクトグラムを活用
- ・音声案内の設置

●誰でも安心して利用できる空間

利用者の多様なニーズに配慮した設備を整えて、それぞれの人が安心して活動できる空間とします。



○具体例

- ・多様な特性をもつ人が利用できる多目的トイレ
- ・授乳スペースと男性でも子どものおむつを交換できるスペース
- ・移動が困難な人、疲れやすい人に配慮した休憩スペース

UD施設の建設プロセス

ユニバーサルデザインを導入した建物づくりにはさまざまな利用者の意見を反映することが大切です。

計画

●**基本構想**…用途や機能、規模、利用頻度等に応じて建物のコンセプトを明確にし、建設プロセスを策定。



設計

●**利用者の要望の把握**…さまざまな人にアンケートや聞き取り調査を行い、求められている建物の機能・規模・性能などを把握。

●**設計者の選定**…公共施設の場合は、公募した提案内容の中から設計案を選ぶ「コンペ方式」や、設計者を選ぶ「プロポーザル方式」によって設計者を選定。



施工・管理

●**利用者参加の設計・施工**…施主、設計者、利用者、専門家が計画・実施設計・施工の段階で意見を交換。「ワークショップ」を開催。



施設完成

●**評価・改善**…施設完成後、市民の評価や管理・運営者による評価をもとに、問題点を把握し、利用者の視点で継続的に改善に取り組む。

8 オフィスのユニバーサルデザイン

ハード

高齢化により人材不足が慢性化している日本において、外国人労働者の受け入れや高齢者、女性の雇用などは、今後さらに拡大すると見込まれています。このような状況下においては、オフィスのユニバーサルデザイン化が不可欠です。個々の使い勝手に合わせ、すべての従業員、来客にとって快適なオフィスを目指す必要があります。

- ポイント 1 移動しやすく、快適なオフィス。
- ポイント 2 エラーを起こしにくい環境づくり。
- ポイント 3 様々な人が働きやすい環境づくり。

移動しやすく、快適なオフィス

快適なオフィス環境を整えることは、そこで働く従業員の日々の業務の効率化に大きく貢献します。様々な人との多様な働き方を可能にするため、オフィスレイアウトや適切な寸法に配慮する必要があります。



- 一人通るための通路幅は60cm以上。車いす利用者に配慮した場合は90cm以上取る (A)。デスク同士を背中合わせに設置する場合は通路幅は180cm以上 (B)。
- キャビネットは開閉スペースを考慮。デスクのサイドに置く場合は135cm以上、デスクの背後に置く場合は140cm以上を推奨 (C)。



従業員の体格差や座位・立位などの姿勢の変化に合わせて、天板の高さを自由に調節することが可能。デスクの高さは車いすでも利用できる72cmを推奨。



オフィスでWEB会議が活用できれば、場所や時間にとらわれず多様で柔軟な働き方が可能に。



座面の高さが個人の体格、作業に合わせて調整可能。レバー部には操作方法をピクトサインで表示。腰から背中をしっかり支えて疲労を軽減。



体格差があっても手が届きやすい高さの引き手。だれでも開閉しやすいサイズの引手形状。180度開く扉で、通路をふさぐことなく収納物を取り出せる。インジケータ付きシリンダー錠で、施・解錠状態が一目でわかる。

エラーを起こしにくい環境づくり

ユニバーサルデザインの7原則の「単純性」や「安全性」の考え方は、エラーを防止し、エラーによる影響を最小限にするために有用です。ムダをなくすことは効率性や生産性を上げるだけでなく、「エラー」をなくすことに繋がります。

「単純性」…使う人の知識や経験に関係なく、使い方がわかりやすく作られている。

「安全性」…ついついったり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られている。



●書類の整理

整頓どこに何の書類があるか色と文字ですぐわかるようにファイリングされている。書類紛失のエラーを防ぐ。



●裁断機

両手で押さなければ作動しない裁断機。指をはさんでしまうことを防ぐ。

様々な人が働きやすい環境づくり

●性的マイノリティの人への配慮

性的マイノリティの人が働くうえでトイレと更衣室は、大きな問題です。トランスジェンダーの人などは、自認する性とは異なる性別のトイレや更衣室を使用しなくてはならない場合、使用を我慢する可能性があります。

男女別のトイレ（更衣室）とは別に、性別にとらわれず使用できる多目的トイレや男女共用の更衣室※を設置することが重要です。

※更衣室がすぐに用意できない場合、多目的トイレ等に着替え台を設置することも1つの方法です。

●宗教の多様性に対応する

宗教は個人の生活習慣の規範となっている場合があります。信仰する宗教によっては、日々の生活の中で義務付けられている行動や、逆に禁じられている行いがあるため、仕事においてそれを踏まえた配慮が求められています。

イスラム教徒（ムスリム）の場合、1日5回の礼拝が義務付けられており、礼拝前には顔・手足・髪など身体の各部位を水で清めなければいけません。そのため、祈祷室の設置を検討するなどの対応が必要です。



注意! 特別な配慮が逆に不公平感を抱く可能性がある

ユニバーサルデザインは「特定の人への支援」ではなく、すべての人が活躍できる環境を整えることが真の目的です。一人ひとりが何を求めているのか聞き、特別な設備がなくても対応できないか話し合いをすることが大切です。

9 トイレのユニバーサルデザイン



多様な特性^{*}を持つ人にとって、安心して利用できるトイレがあることは、外出しやすさに直結します。私たちの生活に欠かせないトイレを、すべての人がより利用しやすくなるように整備や管理を行うことが重要です。

多様なニーズに配慮し、すべての人がストレスなくトイレを利用できるよう、すべてのトイレにユニバーサルデザインを進めることが求められています。

- ※多様な特性
- 高齢者
 - 乳幼児を連れた人
 - 車椅子や杖を使っている人
 - 人工膀胱・人工肛門を保有している人(オストメイト)
 - 介助・同伴が必要な人
 - 性的マイノリティの人 など

- ポイント 1** 多目的トイレに設備や機能を集中せず、複数のトイレに分散する。
- ポイント 2** トイレの情報が誰でもわかるように工夫する。
- ポイント 3** 多様なニーズに配慮する。

●多目的トイレ(だれでもトイレ)

多目的トイレは、多様な特性を持つ人が利用できるトイレで、様々な設備や機能が集約された「多機能トイレ」として整備されています。介助用ベットは、おむつ交換だけでなく着替えや静養できるなど幅広く使用できます。また、カーテンは異性の介助や同伴が必要な人が利用する際に有用です。



設備を分散して設置する工夫

多機能トイレは様々な人が利用しやすい一方で、数が少なく、使いたい人が集中し、利用しづらいと感じる人がいるという課題があります。

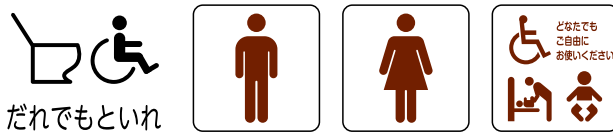
トイレのみの改修等では難しいケースもありますが、集中する設備や機能を他のトイレに設置し、機能を分散させるなどの工夫が必要です。

- ・乳幼児設備などの設備は男女それぞれに設ける。
- ・異性の介助・同伴が必要な人やトランスジェンダー等で男女別トイレを使いにくい人に配慮し、男女共用トイレを車椅子トイレとは別に設ける。
- ・一般トイレへの分散がスペース上難しい場合、男女共用トイレに分散することで、車椅子利用者対応トイレへの設備等の集中を抑えることができる。

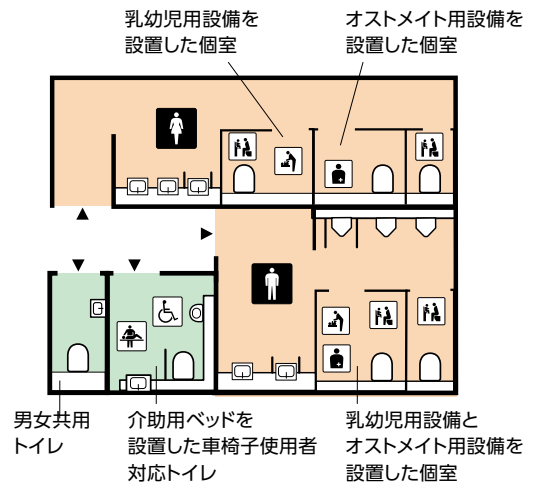
トイレのピクトグラム

施設内のどのトイレにどの設備があるのか、特に設備や機能を分散したトイレにおいては、利用者にわかりやすく伝えるため、施設利用者の特徴に合わせたピクトグラムによる表示を必ず行う必要があります。

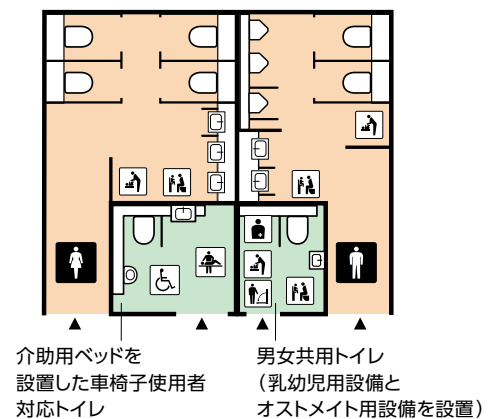
利用者が混乱しないように、できる限り統一を図ることも重要です。



○乳幼児設備とオストメイト用設備を男女別トイレに分散した例



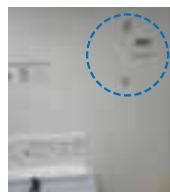
○乳幼児設備とオストメイト用設備を男女共用トイレに分散した例



利用者の立場に立ったトイレって?

おむつ交換台やオストメイトのそばに荷物置き場

乳幼児のおむつ交換台やオストメイト設備を利用する際、必要なものをバッグから出し入れできるよう、近くに荷物置き場が必要です。おむつ交換台やオストメイトのそばにフックや荷物置き場の設置を心がけましょう。



男性用トイレのサニタリーボックス

膀胱がんや前立腺がんにより、おむつやパットを使う男性も増えています。また、災害対策やトランスジェンダーの観点からも、男性用トイレへのサニタリーボックスの設置が望まれています。

様々な利用者の立場に立つことでより利用しやすくなります。

「会社や学校に行く」「散歩を楽しむ」「買い物に行く」など、私たちのあらゆる生活行為はかならず「移動」を伴っています。道路はまちづくりを進める基本的な社会基盤であり、すべての人の日常生活を支える重要な役割を担っています。そのため、誰もが安全・安心で自由に移動できる道路・交通環境を整えることが大切です。

ポイント 1 移動の連続性や安全性に配慮し、快適に移動できる動線をつくる。

ポイント 2 道路と建物、各交通機関等との接続部分は事業者や行政が連携して対応する。

ポイント 3 交通ルールを守り、心づかいや助け合いの気持ちを持って行動する。

ユニバーサルデザイン政策の動向

道路の歩行空間のユニバーサルデザインには、以下の取組があります。

●移動の連続性の確保

歩道からの連続してスムーズに移動ができる動線の確保を進めています。整備の主体が民間、行政等異なる場合は連携して対応します。



●歩行環境の整備

歩道のない道路や、舗装の剥がれ・陥没、側溝蓋のがたつきは、歩行者の通行の安全性や快適性を損ないます。安全で快適な通行ができるよう、歩道の確保とともに、歩行環境の再整備を行います。



●点字ブロックの設置

視覚障がい者の主動線を明確にしながらも、一般利用者の歩行の妨げにならないように設置。点字ブロックの上物を載せないよう、市民の理解を広げることも重要です。



●段差・傾斜・勾配の改善

段差・傾斜・横断勾配をフラットまたはセミフラットにすることで、車椅子、ベビーカー、杖利用者や高齢者などの転倒を防ぎ、スムーズな移動が可能です。



●案内標識の設置

交差点等に行き先表示や周辺地図などを案内する標識を設置して、移動に役立つ情報をわかりやすく伝えます。



●放置自転車対策

駐輪スペースが十分でないために、歩道や入口をふさぎ、安全な動線を妨げてしまうことがあります。駐輪スペースを確保し、歩道等に出ない工夫するとともに、利用する一人ひとりがルールを守ることが大切です。



交通環境のユニバーサルデザイン

誰でも安全で快適に利用できる公共交通施設では、以下の取組が行われています。

●プラットホーム

視覚障がい者をはじめ利用者が転落する危険性を回避するため、電車のホームには点字ブロックが設置されています。



●バス・タクシー等停留所の整備

乗降時の安全性や利用のしやすさを向上させるためには、停留所の整備も必要です。



●デマンド交通(あづみん)

事前予約制の相乗り型の交通サービスで、決められた運行ルートやダイヤはなく、希望の日時や乗車場所、降車場所を指定して利用することができます。車を利用しない人や高齢者の外出を容易にします。



●UDタクシー

高齢者、車いす利用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の人、大きな荷物を持った人等、誰でも利用できる一般タクシー。広い開口部にスライドステップを備え、車いすのまま乗車できます。



●「車いす利用者用駐車区画」 「パーキング・パーミット」

病院や公共施設、商業施設の駐車場には、「車いす利用者用駐車区画」を施設の出入り口付近に設置し、高齢者、障がい者、妊産婦、歩行が困難な人が優先的に駐車できるスペースを確保します。車いす利用者等が自動車から安全に乗り降りできる広めのスペースが必要です。

また、障がい者等用駐車区画の不正利用を防止するため、あらかじめ利用許可証を交付する「パーキング・パーミット制度」を導入する自治体も増えています。



11 公園のユニバーサルデザイン

ハード

公園とは、憩い、遊び、運動をする空間、あるいは豊かな自然に癒される空間としてすべての人にとって大切な場所です。そのため、誰でも利用でき、楽しめる環境づくりが求められます。「公園のユニバーサルデザイン」では、高齢者や障がい者が安全・安心に利用できる公園施設をめざし、すべての市民が参加できる交流の場を創出します。そして、障がいの有無にかかわらず、多様な子どもが共に遊び学べる公園づくりに取り組みます。

- ポイント 1** 出入口から主要な公園施設への接続を確保する。
- ポイント 2** 段差・幅員・勾配に配慮した園路を整備する。
- ポイント 3** 年齢・障がい・国籍にかかわらず、多様な人びとが交流できる場にする。

公園施設のユニバーサルデザイン

誰でも気軽に利用できる公園にするためには、公園全体の配置や設備にさまざまな工夫が必要です。都市公園については、国土交通省が策定した「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」（2022年改訂）に基づき整備を進めていきます。

●出入口

車いす利用者等が安全かつ円滑に通過できる出入口を1ヶ所以上設置。車いす使用者の通行可能な園路と連結させることが必要です。車止めは、誰でも通行しやすいように広めの間隔をとって設置します。



●園路

主要な園路は、出入口と連続した構造で、利用者が目的の空間まで容易に移動できる動線にします。十分な幅員をとり、傾斜路の場合は車いす利用者が安全に移動できる勾配とします。



●多目的トイレ

車いす利用者、乳幼児連れの方など、さまざまな人が利用できるトイレを設置します。入口や室内は、車いす利用者にとって十分なスペースを確保します。



●ベンチ・野外卓

高齢者、障がい者等が利用しやすい構造のベンチ・野外卓を設置。車いす利用者が隣接して滞在できるように配慮します。



●休憩所

利用者が休みやすい様に設置。出入口は段差をなくすなど配慮します。



●水飲場・手洗場

車いす利用者に配慮して段差のない水平な地面に設置し、容易に近づけるよう十分な広さを確保。給水栓は視覚障がい者に配慮したレバー式やボタン式を併設することもあります。



●自然を楽しめる公園づくり

自然豊かな安曇野では四季の移ろいを五感で感じることができます。多様な動植物を守るとともに、子どもも大人もすべての人が生きいきと自然を楽しむことができる環境を整備していきます。



遊び場・遊具のユニバーサルデザイン

「誰もが一緒に遊べる公園」として、「インクルーシブ公園」が近年注目されています。身体に障がいがある子ども、知的・発達障がいがある子ども、外国にルーツがある子どもなど、いろいろな子どもたちが一緒に遊ぶ体験を通して多様性への相互理解を育みます。



園路は滑りにくい樹脂系舗装、遊具周りは転んでもケガをしにくいゴムチップ舗装にすると安全。遊具の色は色覚に障がいのある子どもにも認識しやすいよう配慮するとともに、視覚過敏の人などにとって過度な刺激となる色の多用は控える。

写真左上：車いすや歩行器でもトップデッキまで上がれ、幅広い滑り台は補助をしながら滑ることも可能。

写真右上：乗り場全体が背もたれになっている回転遊具は、体を支える力が弱い子どもでも乗れる。

写真左下：触って遊べる仕掛けがついた迷路。ベビーカーや車いすでも通行可能。

写真右下：幅広い座面のシーソーは、二人並んで座れ、中央天板は横になって遊ぶこともできる。

12 防災のユニバーサルデザイン

ハート

ハード

ソフト

災害が起こると、公民館や学校の体育館などに一般避難所が開設され、地域の住民の皆さんが避難します。しかし、高齢者や障がい者、妊産婦、外国人など「要配慮者」にとっては、整備されていない避難所へは避難しにくく、倒壊の危険性がある自宅や車中での生活となりがちです。災害時にすべての人が安心して生活できるよう、避難施設のユニバーサルデザイン化を図るとともに、避難が難しい人を支えるサポート体制を整え、地域全体で災害に強いまちづくりを進める必要があります。

ポイント 1 避難施設となる公共施設は、
防災の視点から建築計画・改修を行う。

ポイント 2 避難が難しい人を支える
サポート体制を整備する。

ポイント 3 日頃から地域の交流や防災訓練に参加し、
さまざまな人への理解を深める。



安曇野市防災広場

避難施設のユニバーサルデザイン化

公共施設をユニバーサルデザイン化することによって、災害時、地域の避難施設として使用する際に、避難した方の負担を減らすことができます。

- 〈例〉・出入り口の段差をなくす（車いす使用者の経路の確保だけでなく、物資搬入が簡単になる）
・段階のない経路でアクセスできる場所にトイレを設置（トイレへの安全な経路の確保ができる）
・多目的トイレの整備（介助者や子どもと入れるトイレの確保をする）

市・地域・事業者との連携

災害時に一人での避難が難しい人を支援するため、地域や事業者など支援者と連携できる体制づくりが必要です。

●避難行動要支援者名簿、 個別避難計画の作成

必要な医療的・福祉的ケア等の情報を明確にし、関係機関と共有できるしくみを構築します。

●福祉避難所の確保

避難施設での生活が困難な要配慮者を受け入れる二次避難施設（福祉避難所）を確保します。

●避難先への輸 送体制を整備

福祉施設等事業者と協力して、移動困難な人を支援します。



災害時の情報

●安曇野市の防災情報

ホームページ、メール配信サービス、デジタル同報系防災行政無線、緊急告知機能付き防災ラジオ など。



●災害時に使える多言語アプリ

- ・翻訳アプリ「VoiceTra(ボイストラ)」…31言語の外国語に翻訳してくれる音声翻訳アプリ。 ※提供元：国立研究開発法人 情報通信研究機構
- ・Safety tips…日本の災害情報を知らせるアプリ。
- ・NHK WORLD-JAPAN…NHKのニュースを配信するサービス。地震・津波情報など。

防災のピクトグラム



避難所

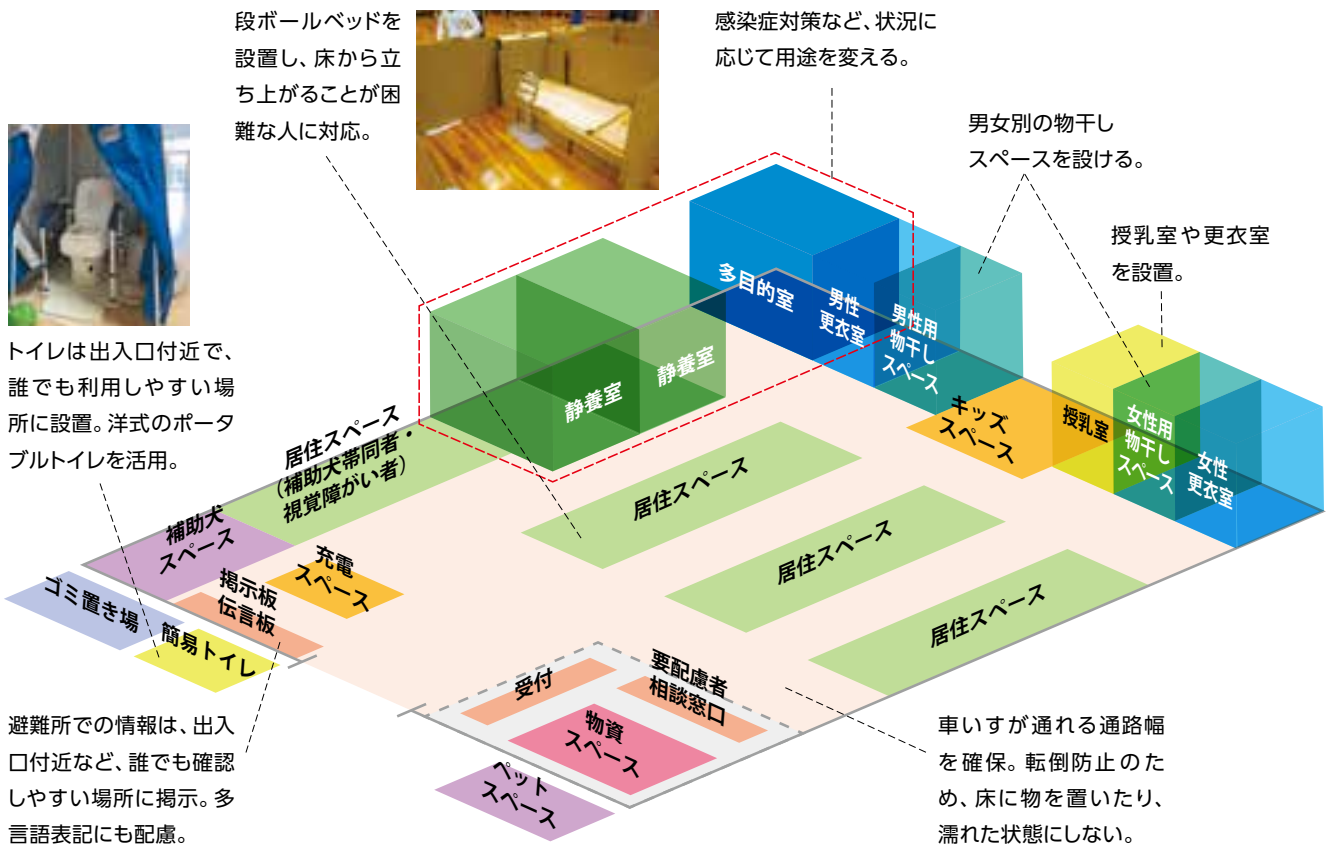
・**避難所**…自宅が被害を受け、生活困難な場合に一定期間生活する場所。学校、公民館等。



避難場所

・**避難場所**…危険から逃れるために一時的に避難する場所。公園等。

避難所レイアウト例(長期避難生活を想定)



避難所において女性や子どもに対する性被害を防止するため、プライバシーと安全性の確保が必要です。

平常時からの「ユニバーサルデザイン」が防災・復興の基盤となる

災害は地震、風水害等の自然現象(自然要因)とそれを受け止める側の社会の在り方(社会要因)によりその被害の大きさが決まってくると考えられています。災害時には平常時における社会の課題が一層顕著になって現れ、とりわけ、要配慮者や脆弱な状況にある人がより多くの影響を受けることが指摘されています。

防災に対する平常時の備え、災害時、復旧・復興の各場面において、それぞれの意見を聞き、必要な支援を提供できるよう取り組むことで、社会的要因による困難を最小限にでき、被害を小さくすることができます。

配慮を必要とする人たちに関するマーク



障がい者のための国際シンボルマーク

障がい者が利用できる施設等であることを示すマーク。



盲人のための国際シンボルマーク

視覚障がい者に配慮した建物、設備等であることを示すマーク。



ほじょ犬マーク

補助犬(盲導犬・聴導犬・介助犬)を受け入れる施設で表示するマーク。



耳マーク

聴覚に障がいがあることを表すマーク。



聴覚障がい者標識

聴覚障がい者が運転する車に表示するマーク。



身体障がい者標識

肢体不自由者が運転する車に表示するマーク。



ヘルプマーク

障がい者など援助を必要とする方が、周囲の人に必要な支援や配慮をお願いするためのマーク。



ハート・プラスマーク

体の内部に障がいがある人を示すマーク。



オストメイトマーク

人工肛門・人工膀胱を造設している人(オストメイト)のための設備があることを示すマーク。



マタニティマーク

妊産婦であることを示すマーク。



パーキングパーミット

移動に配慮を必要とする人に交付される利用証。障がい者専用駐車場を利用できる。

登場人物



ゆう

中学生。目に見えない障がいを持っている。



あい

ゆうさんの同級生。



なごみ

ゆうさんのお母さん。妊婦さん。



たまき

なごみさんの義理のお母さん。足腰が弱い。



アラン

カナダからの旅行者。

キャラクターデザイン・イラスト まるやま あやこ

発行：安曇野市 政策部 人権共生課

発行日／令和6年2月

〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

TEL:0263-71-2406 FAX:0263-71-5155

E-mail: jinken@city.azumino.nagano.jp

市のホームページでも公開しています。

